

議 事 録

令和7年1月15日作成

会 議 の 名 称	令和6年度第2回島本町総合教育会議		
会 議 の 開 催 日 時	令和6年12月20日（金）10時45分～ 11時30分		
会 議 の 開 催 場 所	島本町役場3階 委員会室	公開の可否	可
事務局（担当課）	総合政策部 政策企画課	傍聴者数	1名
非公開の理由（非公開（会議の一部非公開を含む。）の場合）	—		
出 席 委 員	議 長 山田町長 教育委員会 横山教育長、高岡委員、西尾委員、丸野委員、細見委員		
会 議 の 議 題	案件1 給食費について 案件2 今後の保育需要への対応について 案件3 みづまるキッズプランの取組状況について		
配 布 資 料	資料1 学校給食費の無償化に係る意見交換について 資料2 今後の保育需要への対応について 資料3 みづまるキッズプランについて		
審 議 の 内 容	別紙のとおり		

開会

- 開催のあいさつ
- 傍聴の有無の確認

【案件1】給食費について

議 長

それでは、案件に従いまして、議事を進めさせていただきます。
まずは、案件1、給食費についてでございます。
配布資料1をもとに、教育委員会事務局から概要を説明願います。

教育委員会事務局

（資料1「学校給食費の無償化に係る意見交換について」の説明）

議 長

ただいま学校給食費について教育委員会事務局から説明がございました。
教育委員の皆様からご意見、ご質問等ございましたらよろしく願いいたします。

委 員

給食費の増額25円分を令和5年度から公費負担となり助かっている家庭も多いと思う。

国家予算に対する要望をされており、授業料等と同様に、給食費もある程度義務教育の間は無償化が良いと考えているが、もし要望が通らない場合は町としてどのようにお考えかお聞かせいただきたい。

総 合 政 策 部

給食費につきましては、先ほど説明がありましたように、小中学校を合わせますと1億5500万円と非常に大きな金額となります。

値上げ分については先ほど委員からありましたように、国の交付金を活用し、値上げをせずに据え置いている状況にありますが、やはり財源の問題があります。国において先般、補正予算が可決され、交付金が交付される予定ではありますが、全額を充てることは難しい状況です。引き続き値上げ分については交付金等で対応していくよう考えておりますが、それ以上の軽減については検討をさせていただきたいと思います。

委 員

大阪府内の町村で全額免除としているところが多い中、島本町と何が違うのか疑問に感じる。

他自治体ではどのように捻出されているのか。

総 合 政 策 部

府内を見ていると町村でも全額免除としているところがありますが、本町は若い世代の転入などにより子どもの数が増加しているということで、府内の町村の実情とは異なっていると考えております。また、少子化対策として実施されている自治体もありますが、本町は転入の方が多くなっており、少子化対策という形での実施は難しいかと思っております。

全国を見ますと、103万円の壁等が話題になっていますが、その辺で自治体の財源が減るような方向にある中、実施されていてもやめていく方向性を出されている自治体もあると聞いていますので、今後の税収も見据えた形で考える必要があると考えております。

委 員

北摂地域は人口が維持どころか増加の面もあるということだが、島本町においても住み続けたい街で一番になるなどの影響もあり、人口も増えてきていると思う。人口が増えるということはそれだけお金が必要になる面もありますが、島本町がより活性化して子どもたちが増え、そして素晴らしい教育

がなされていくためには、国への要望とともに、可能であれば段階的にでも支援を続けて欲しい。

総合政策部

近隣の自治体では無償化が進められておりますので、比べると見劣りする部分はあるかと思います。財源との関係もありますが、十分精査をしながら、何らかの支援ができないか引き続き検討していきたいと考えております。

委員

島本町は、教育にすごく力を入れておられるとお聞きしている。財源が苦しいのも重々承知しているが、他の町村がやられているのであれば、子どもの給食費については何とかして欲しい。

委員

例えば中学校からまずは始められないか。家庭でも食費がかかる年代になるか考える。保護者の目線でもやはり給食費がかからないというのはすごくありがたいことだと思う。

議長

もし段階的にできるとなれば、中学3年生からなどその部分だけなど、財源のバランスを見ながら検討はしても良いかと思います。

【案件2】今後の保育需要への対応について

議長

次に、案件2、今後の保育需要への対応についてでございます。
配布資料2をもとに、教育委員会事務局から概要を説明願います。

教育委員会事務局

（資料2「今後の保育需要への対応について」の説明）

議長

ただいま今後の保育需要への対応に係る意見交換について教育委員会事務局から説明がございました。教育委員の皆様からご意見、ご質問等ございましたらよろしくお願いいたします。

委員

小規模保育事業所を作るという提案はすごくありがたいと思う。ただ、小規模保育事業所は29人以下だと思うが、29人で足りるか。

また第一幼稚園の拡充も今就労の方のことも考え時間数を長く取るということであるが、幼稚園であれば3～5歳児なので、やはり0・1・2歳児の対応を小規模保育のみでは難しいのではないかと。どのようにお考えか聞かせて欲しい。

教育委員会事務局

まず小規模保育事業所につきましては、19人以下という規定になっております。従いまして当該施設につきましても、その最大枠である19人という設定で考えております。

第一幼稚園につきましては、3年保育にして3歳児から5歳児の受入枠といたします。ご心配の0歳児から2歳児が19人では不足するではないのかということですが、ご指摘のとおりだと思います。

ただ、現状を踏まえまして、まずは着手できるところから行っていくということでこの二つの需要対策という形で進めていきたいということです。

もちろんこれで今後の保育需要の全てを受け止めきれんとは言いきれませんので今後につきましても、町内の現有施設における受入枠について調整を図っていく必要がございます。かねてから様々な場面でご説明しております弾力的運用につきましては、際限なくということは考えておらず、以前のような著しい弾力的運用には至らない程度におきましてこれを活用して実施するということもございまして、それ以外の様々な選択肢も検討していく必要があると考えております。

委員

弾力的に一つの保育所に定員を10パーセント増などという形で今までもされてきたと思うが、保育士側の視点から立つと、子どもの命を預かるのでその様にはして欲しくないと思っている。より保育士のなり手が少なくなることが懸念されるため、しっかりと定員の中で見てもらえるように増やしていただきたい。

以前にも同じ質問をさせていただいたが、第一幼稚園を認定こども園にというお考えはないのか。こども園になると0・1・2歳児も預かることができるので、その辺についてはどのようにお考えか。

議長

以前にもお答えしているかと思いますが、こども園とするということは難しいと考えております。

今回は小規模保育事業所を設置するということでもず、0歳・1歳・2歳児を、それ以降の分は幼稚園の方でという形で考えております。

お子さんを預ける側からすると同じところでずっと預けたいという思いがある方も結構いらっしゃるかと思います。先ほど担当課から申し上げたようにまずはできることからというところで実施していきたいと思っております。

議長

当初のマンションの開発の見込みでの保育の需要率からすると、少し上振れをしている部分があります。なんとかこの間、待機児童もゼロにしてきたところですが、11月が1人、12月が2人ほどになってきているということで、弾力化という部分で少しカバーをさせていただいています。

少し前と比べると今はゆとりを持った形で運用している部分もありますが、現状通っておられるお子さんにご負担を少ししていただく部分はあるのではないかと思います。弾力的な運用をした上で対応も検討していきたいと考えております。

【案件3】みづまるキッズプランの取組状況について

議長

次に、案件3、みづまるキッズプランの取組状況についてでございます。配布資料3をもとに、教育委員会事務局から概要を説明願います。

教育委員会事務局

（資料3「みづまるキッズプランについて」の説明）

議長

ただいまみづまるキッズプランの取組状況について教育委員会事務局から説明がございました。教育委員の皆様からご意見、ご質問等ございましたらよろしくお願いいたします。

委員

先日第一小学校の校内研究会社会科の授業があり、指導助言という形で行かせていただいたが、先生方の間で総合的な学習についての意識が高まっているように感じた。

それがやはり幼・保・小・中通してのみづまるキッズカリキュラムへの取り組みがどんどん先生方の中に浸透していつている成果なのではと感じており、とても心強く思っている。

ぜひ今後もこのまま推進していただきたいと思う。

委員

非常に高尚な理念で進められていて非常に興味深く見させていただいている。ただ、小学校中学年～中学校への接続で総合的な学習の時間をやるというのは教員というのは教科書で教えているわけで、総合的な時間というのは教員の不得手もあるため組み立てていくのが大変難しいと思う。今後進められる際にそのあたりの検討は密に行っていただき、あまり教員の負担にならず、大きな失敗のないように進めていただければと思う。

教育委員会事務局

総合の時間の中でというところで、得手、不得手があるということも承知しています。

まず今年度については、先生方の得意不得意に関わらず、このみづまろキッズプランの理念を取り入れた形での総合的な学習の実施について今までやってきていることをやる意味を見直すというようなイメージで、理念を共有していくということをメインに取り組んでいるところでございます。

昨日、第4回目の取り組み会議があり、この会議の中では理念の共有を重ねてきた中で単元計画を実際この理念を取り入れた形でどのようなものができるかというのを考えてみませんかということで、各学校バラバラで学年集団が集まって考えてみるということを行いました。

こういったことを一つのきっかけとして、全ての学校で系統的そして統一的な考え方のもとに総合を展開していけたらと思っています。

また、教育研究会と教職員が中心にしている組織の中に総合学習の部会がありますので、そことの連携というところも今後しっかり推進していくことができればより一体的なものになっていくのではないかと考えております。

委員

交流の内容意見の下から二つ目、これが本当に大事だと思っている。

小学校中学校の先生方がすごく理解しようとしてくれているというところが、やはり始まりではないかと思うので、そのように今後も進めていっていただきたい。

接続の時期がとても難しいと思うので、いろいろなことを先生方で考えてもらえるこういう研究会はとても素敵だと思って見ている。

議長

それではこの案件につきましては以上でよろしいでしょうか。

引き続き、しっかりと取り組んでいただきたいと思います。

そうしましたら本日の案件は全て終了いたしました。事務局から何か特にありますか。

事務局

特にございません。

議長

では以上をもちまして令和6年度第2回総合教育会議を閉会いたします。本日はありがとうございました。

＜終了＞